

2021年3月期第3四半期決算及び グループ経営ビジョン「変革2027」の 新たな数値目標の設定についての説明会

2021年2月1日

東日本旅客鉄道株式会社

I 2021年3月期 第3四半期決算及び通期業績予想

第3四半期決算ハイライト（単体・連結）	4
コストダウン実績	5
鉄道運輸収入 2021年3月期 第3四半期実績	6
鉄道運輸収入 2021年3月期 第3四半期実績及び見通し	7
鉄道運輸収入 2021年3月期 通期計画	8
単体営業費用 2021年3月期 第3四半期実績	9
単体営業費用 2021年3月期計画	10
運輸事業 実績と計画	11
流通・サービス事業 実績と計画	12
不動産・ホテル事業 実績と計画	13
その他 実績と計画	14
営業外損益・特別損益の実績及び通期計画（連結）	15
設備投資の推移（連結）	16
有利子負債残高の推移（連結）	17
資金調達について	18

II グループ経営ビジョン「変革2027」の新たな数値目標の設定について

「変革2027」の数値目標（2025年度）	20
「変革2027」の数値目標（運輸事業）	22
「変革2027」の数値目標（流通・サービス事業）	24
「変革2027」の数値目標（不動産・ホテル事業）	25
「変革2027」の数値目標（その他）	26
資金調達と資金使途	27
設備投資の実施方針	28
負債の管理方針	29
株主還元方針	30
具体的な取組みの数値目標（2025年度）	31

III 参考資料

- ・2021年3月期 旅客輸送量・鉄道運輸収入 計画
- ・ホテル事業の概要
- ・変革のスピードアップの進捗
- ・グループ事業の再編
- ・Suica
- ・モバイルSuica・えきねっと
- ・JRE POINT
- ・債券投資家向け追加資料

I 2021年3月期 第3四半期決算及び通期業績予想

第3四半期決算ハイライト（単体・連結）

単体

(単位：億円)	2019.12 実績	2020.12 実績	2020.12/2019.12	
			増減	(%)
営業収益	16,001	8,861	△7,139	55.4
運輸収入	14,063	7,212	△6,851	51.3
その他の収入	1,937	1,648	△288	85.1
営業利益	3,534	△2,878	△6,413	－
経常利益	3,282	△3,171	△6,454	－
四半期（当期） 純利益	2,135	△2,302	△4,437	－

2020.3 実績	2021.3計画			2021.3/2020.3	
	9月	1月	増減	増減	(%)
20,610	12,510	11,720	△790	△8,890	56.9
17,928	10,200	9,430	△770	△8,498	52.6
2,682	2,310	2,290	△20	△392	85.4
2,940	△4,630	△5,080	△450	△8,020	－
2,601	△5,010	△5,470	△460	△8,071	－
1,590	△3,640	△3,950	△310	△5,540	－

連結

(単位：億円)	2019.12 実績	2020.12 実績	2020.12/2019.12	
			増減	(%)
営業収益	22,666	13,062	△9,603	57.6
営業利益	4,272	△3,230	△7,502	－
経常利益	3,925	△3,730	△7,655	－
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	2,515	△2,945	△5,461	－

2020.3 実績	2021.3計画			2021.3/2020.3	
	9月	1月	増減	増減	(%)
29,466	19,300	17,730	△1,570	△11,736	60.2
3,808	△5,000	△5,350	△350	△9,158	－
3,395	△5,490	△5,960	△470	△9,355	－
1,984	△4,180	△4,500	△320	△6,484	－

コストダウン実績

(単位：億円)	損益			設備投資	合計	
	計画 2020.9	実績 2020.12	計画 2021.1	計画 ※2	計画	
					2020.9	2021.1
JR東日本 (単体)	620	755	965	540	1,160	1,505
グループ会社 ※1	300	300	350	100	400	450
合計	920	1,055	1,315	640	1,560	1,955

※1 各社の単純合計

※2 設備投資の実績は期末決算時に精査

12月期までに、損益にてグループ全体で**1,055億円**のコストダウンを実施。
 9月計画から単体では345億円（冬季賞与削減額210億円、その他135億円）、
 グループ会社では50億円上積みし、期末までに、**1,315億円**のコストダウンを行う。

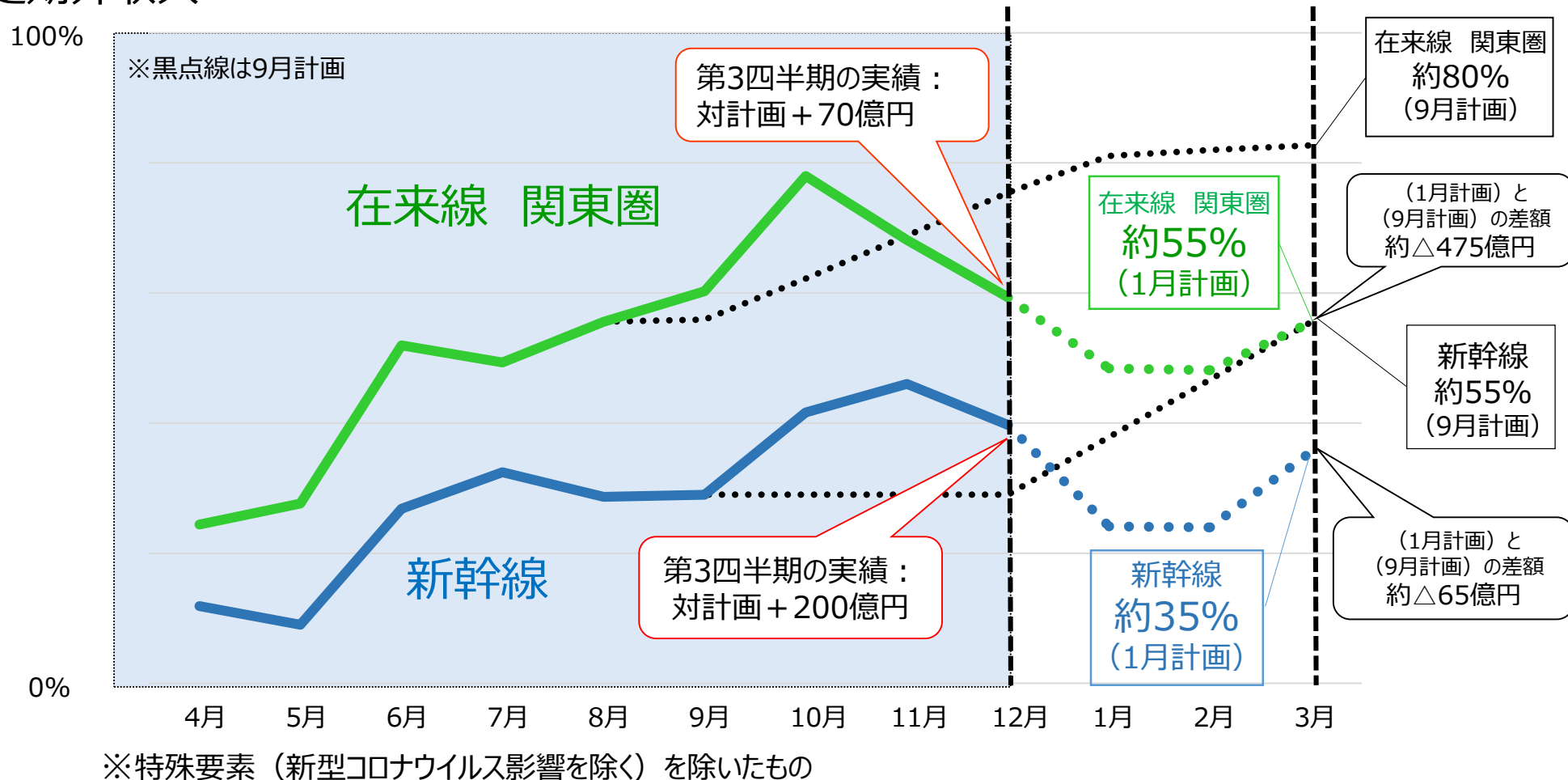
鉄道運輸収入 2021年3月期 第3四半期実績

(対前年、億円、%)	増減	(%)	要素	要素別増減額
鉄道運輸収入	△6,851	51.3		
定期	△959	75.1	新型コロナウイルス影響	△960
定期外	△5,891	42.3		
新幹線	△3,050	29.6	新型コロナウイルス影響	△3,085
			GW10連休化・年末反動	△30
			天候災害反動	+65
			基礎	-
	△2,621	52.1	新型コロナウイルス影響	△2,690
			GW10連休化・年末反動	△15
			ラグビーW杯反動	△5
			天候災害反動	+95
			基礎	-
在来線 関東圏	△219	43.4	新型コロナウイルス影響	△215
			基礎	-
在来線 その他				

鉄道運輸収入 2021年3月期 第3四半期実績及び見通し



■ 定期外収入



■ 定期収入：2020年度末時点で約80%の水準に到達（9月計画では約85%と想定）

第3四半期の実績：対計画△65億円

(1月計画)と(9月計画)の差額 約△180億円

鉄道運輸収入 2021年3月期 通期計画

(単位：億円) 計画 (対前年)		通期計画		主な増減要素	※基礎 トレンド
		3Q実績	4Q計画		
鉄道運輸収入		52.6%			100%
		51.3%	57.4%		
定期		75.2%		・新型コロナウイルス影響：△1,275 ・新型コロナウイルス影響（2020年1～3月期）反動：+10	100%
		75.1%	75.3%		
定期外		43.6%			100%
		42.3%	49.0%		
新幹線		30.7%		・新型コロナウイルス影響：△4,085 ・GW10連休・年末年始・うるう年反動：△40 ・天候災害反動：+65 ・新型コロナウイルス影響（2020年1～3月期）反動：+320	100%
		29.6%	34.9%		
在来線関東圏		53.6%		・新型コロナウイルス影響：△3,600 ・GW10連休・年末年始・うるう年反動：△30 ・ラグビーW杯反動：△5 ・天候災害反動：+95 ・新型コロナウイルス影響（2020年1～3月期）反動：+315	100%
		52.1%	59.0%		
在来線その他		45.1%		・新型コロナウイルス影響：△290 ・新型コロナウイルス影響（2020年1～3月期）反動：+20	100%
		43.4%	51.6%		

※新型コロナウイルスの基礎収入への影響は、現時点で正確に見積もることが出来ないことから、特殊要素とすることとし、基礎トレンドを100%としている。

単体営業費用 2021年3月期 第3四半期実績

(単位：億円)	2019.12 実績	2020.12 実績	2020.12/2019.12		
			増減	(%)	実績増減の主な要因
営業費用	12,466	11,740	△726	94.2	
人件費	3,323	2,854	△469	85.9	・賞与の減：△315 ・社員数の減など：△51
物件費	5,456	5,151	△305	94.4	
動力費	451	393	△57	87.3	・燃料単価減：△48
修繕費	1,940	1,908	△31	98.4	・車両修繕費：△36 ・一般修繕費：+4
その他	3,064	2,848	△215	93.0	・収入対応経費：△133
機構借損料等	624	621	△2	99.6	
租税公課	802	749	△52	93.5	
減価償却費	2,259	2,363	+103	104.6	・設備投資の増

単体営業費用 2021年3月期計画

(単位：億円)	2020.3 実績	2021.3計画			2021.3/2020.3（対前年）		
		9月	1月	増減	増減	(%)	増減の主な要因
営業費用	17,670	17,140	16,800	△340	△870	95.1	
人件費	4,444	4,140	3,900	△240	△544	87.7	[△]賞与の減 [△]社員数の減など
物件費	8,311	8,010	7,910	△100	△401	95.2	
動力費	645	600	570	△30	△75	88.2	[△]燃料単価減
修繕費	3,021	2,970	2,990	+20	△31	99.0	[△]車両修繕費 [+]一般修繕費
その他	4,644	4,440	4,350	△90	△294	93.7	[△]ALFA-X走行試験 [+]高輪ゲートウェイフェスト [+]アウトソーシング
機構借損料等	833	830	830	—	△3	99.6	
租税公課	1,006	1,000	970	△30	△36	96.4	
減価償却費	3,074	3,160	3,190	+30	+115	103.8	[+]固定資産の増

運輸事業 実績と計画

(単位：億円)	2019.12	2020.12	2020.12/ 2019.12
営業収益	15,451	8,206	△7,245 53.1%
営業利益	3,168	△3,312	△6,480 -

2021年3月期 第3四半期 営業収益の主な増減要因

JR東日本 △6,992 (52.5%) 新型コロナウイルスの影響による運輸収入の減

新型コロナウイルスの影響額 △7,300億円

(注) 営業収益：外部顧客への売上高

営業利益：外部顧客への売上高＋セグメント間売上高－外部仕入－セグメント間仕入

〔参考〕新幹線の方面別輸送量の推移（前年同月比 %）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(4~12月) 累計
東北新幹線※ (古川～北上、 大宮～宇都宮の合計)	13	11	27	33	25	39	51	49	40	32
上越新幹線 (大宮～高崎)	16	13	31	34	26	39	44	44	41	32
北陸新幹線 (大宮～高崎)	12	10	28	34	28	41	69	63	48	36

※ 東北新幹線には「つばさ」「こまち」を含む

2020.3実績	2021.3計画 [9月計画]	2021.3/ 2020.3 (対前年)
19,945	10,830 [11,700]	△9,115 54.3%
2,505	△5,650 [△5,290]	△8,155 -

収入の見通し

＜JR東日本運輸収入＞

年度末時点でコロナ前の5割程度

(新幹線:約35% 在来線関東圏:約55% 定期:約80%)

流通・サービス事業 実績と計画

(単位：億円)	2019.12	2020.12	2020.12/ 2019.12
営業収益	3,853	2,312	△1,540 60.0%
営業利益	283	△126	△409 -

2020.3実績	2021.3計画 [9月計画]	2021.3/ 2020.3 (対前年)
5,020	3,330 [3,750]	△1,690 66.3%
343	△40 [△40]	△383 -

2021年3月期 第3四半期 営業収益の主な増減要因

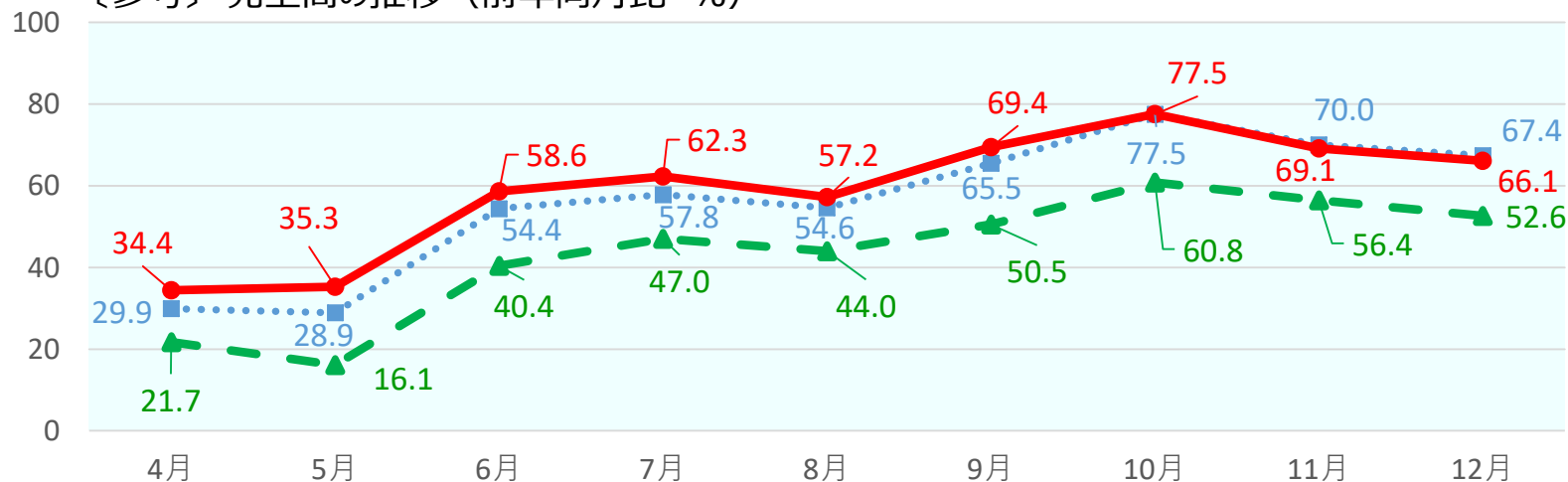
リテール	△701 (58.8%)	新型コロナウイルスの影響による減
鉄道会館	△224 (39.3%)	新型コロナウイルスの影響による減
ジェイアール東日本企画	△205 (64.6%)	新型コロナウイルスの影響による減

新型コロナウイルスの影響額 △1,450億円

(注) 営業収益：外部顧客への売上高

営業利益：外部顧客への売上高＋セグメント間売上高－外部仕入－セグメント間仕入

〔参考〕 売上高の推移 (前年同月比 %)



収入の見通し

<エキナカ店舗>

年度末時点でコロナ前の6～8割程度

<広告業>

年度末時点でコロナ前の8～9割程度

●●● 物販・飲食	
●●● リテール (既存)	
●●● JR東日本フーズ (既存)	
(4～12月) 累計	
物販・飲食	58.1
リテール (既存)	55.7
JR東日本フーズ (既存)	44.2

不動産・ホテル事業 実績と計画

(単位：億円)	2019.12	2020.12	2020.12/ 2019.12
営業収益	2,682	2,006	$\triangle 676$ 74.8%
営業利益	670	138	$\triangle 531$ 20.7%

2020.3実績	2021.3計画 [9月計画]	2021.3/ 2020.3 (対前年)
3,485	2,760 [3,050]	$\triangle 725$ 79.2%
746	240 [240]	$\triangle 506$ 32.2%

2021年3月期 第3四半期 営業収益の主な増減要因

ルミネ	$\triangle 200$ (65.8%)	新型コロナウイルスの影響による減
日本ホテル	$\triangle 193$ (37.2%)	新型コロナウイルスの影響による減
アトレ	$\triangle 87$ (74.8%)	新型コロナウイルスの影響による減
JR東日本ビルディング	+26 (107.5%)	JR横浜タワー開業等による増

(注) 営業収益：外部顧客への売上高
営業利益：外部顧客への売上高 + セグメント間売上高 - 外部仕入 - セグメント間仕入

新型コロナウイルスの影響額 $\triangle 770$ 億円

収入の見通し

<ショッピングセンター事業>

年度末時点でコロナ前の8～9割程度（館ごとに異なる）

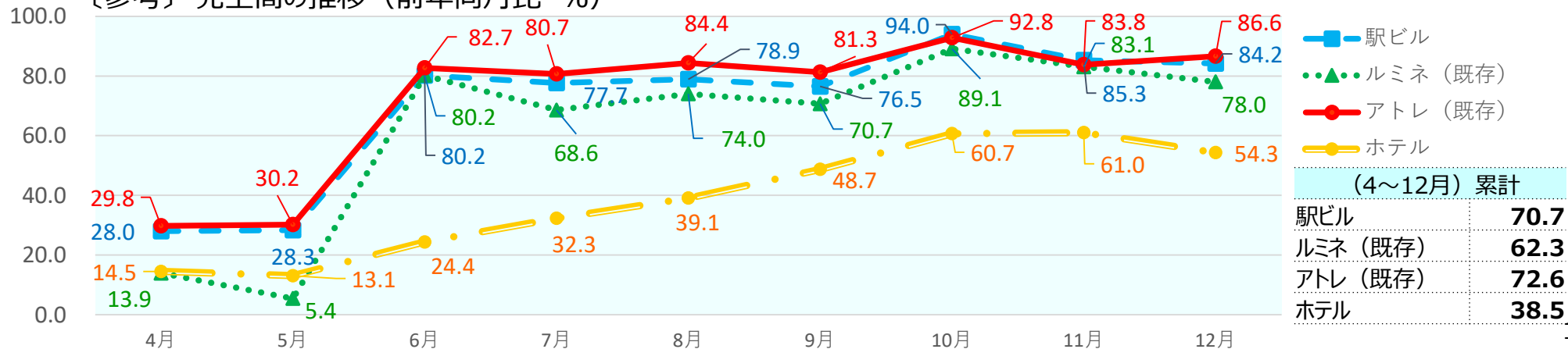
<オフィス事業>

年度末時点でコロナ前とほぼ同程度

<ホテル事業>

年度末時点でコロナ前の6割程度

〔参考〕売上高の推移（前年同月比 %）



その他 実績と計画

(単位：億円)	2019.12	2020.12	2020.12/ 2019.12
営業収益	678	537	△141 79.2%
営業利益	151	73	△77 48.8%

2021年3月期 第3四半期 営業収益の主な増減要因

JR東日本メカトロニクス	△48 (72.1%)	IC関連機器の販売減
日本コンサルタンツ	△35 (54.7%)	インド国高速鉄道建設事業詳細設計調査の減
JR東日本情報システム	△25 (68.1%)	システム受託収入の減
ビューカード	△23 (89.5%)	新型コロナウイルスの影響による加盟店手数料の減

新型コロナウイルスの影響額 △80億円

(注) 営業収益：外部顧客への売上高
営業利益：外部顧客への売上高＋セグメント間売上高－外部仕入－セグメント間仕入

2020.3実績	2021.3計画 [9月計画]	2021.3/ 2020.3 (対前年)
1,015	810 [800]	△205 79.8%
238	120 [110]	△118 50.3%

IT・Suica事業 実績 (2021年3月期 第3四半期)

営業収益	380億円 (83.8%)	(外部顧客への売上高) ※
営業利益	58億円 (48.0%)	

※営業収益 (セグメント間売上高を含む) は808億円 (84.5%)

収入の見通し

<クレジットカード事業>
年度末時点でコロナ前とほぼ同水準

〔参考〕 電子マネーの月間利用件数の推移 ※相互利用先加盟店を含む (上段：百万件 下段：前年同月比%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(4~12月) 累計
130 (63.8)	127 (59.1)	187 (87.5)	202 (87.6)	212 (90.9)	209 (92.2)	220 (90.1)	211 (85.0)	210 (83.4)	1,708 (82.6)

営業外損益・特別損益の実績及び通期計画（連結）

(単位：億円)	2019.12	2020.12	増減
営業利益	4,272	△3,230	△7,502
営業外損益	△346	△499	△153
営業外収益	145	136	△8
持分法による投資利益	42	－	△42
雇用調整助成金	－	38	+38
その他	102	97	△5
営業外費用	491	635	+144
持分法による投資損失	－	116	+116
その他	491	518	+27
経常利益	3,925	△3,730	△7,655
特別損益	△309	△269	+39
特別利益	190	177	△12
災害に伴う受取保険金	55	－	△55
工事負担金等受入額	94	58	△35
固定資産売却益	34	109	+75
その他	6	9	+2
特別損失	499	447	△52
災害損失引当金繰入額	294	－	△294
工事負担金等圧縮額	75	57	△18
災害による損失	17	－	△17
環境対策費	－	240	+240
その他	112	149	+37
税金等調整前四半期純利益	3,616	△3,999	△7,616

2020.3	2021.3計画			2021.3/ 2020.3 (対前年)
	9月	1月	増減	
3,808	△5,000	△5,350	△350	△9,158
△413	△490	△610	△120	△196
3,395	△5,490	△5,960	△470	△9,355
△553	△400	△400	－	+153

設備投資の推移（連結）

(単位：億円)			2017.3 (実績)	2018.3 (実績)	(単位：億円)			2019.3 (実績)	2020.3 (実績)	2020.12 (実績)	2021.3 計画
運輸事業	成長投資		548	974	輸送サービス	成長投資		935	1,107	2,250	680
	維持更新投資		3,283	3,269		維持更新投資		3,072	3,133		3,240
						重点枠 (イノベーション投資等)		314	467		610
	合計		3,831	4,244		合計		4,323	4,707		4,530
非運輸事業	成長投資		1,151	1,208	IT・生活サービス	成長投資		1,605	2,345	1,680	2,160
	維持更新投資		84	51		維持更新投資		325	322		390
						重点枠 (イノベーション投資等)		44	30		30
	合計		1,235	1,260		合計		1,976	2,698		2,580
	成長投資		1,699	2,183		成長投資		2,541	3,452	—	2,840
	維持更新投資		3,367	3,320		維持更新投資		3,398	3,455	—	3,630
	(うち、重点枠)		(235)	(253)		(減価償却費)		3,687	3,747	2,868	3,860
	(減価償却費)		3,641	3,679		重点枠 (イノベーション投資等)		359	497	—	640
合計			5,067	5,504	合計			6,299	7,406	3,931	7,110

※ 2017年3月期については、セグメント情報見直し前の運輸業・非運輸業の投資額を記載しています。

有利子負債残高の推移（連結）

(単位：億円)	2016.3 (実績)	2017.3 (実績)	2018.3 (実績)	2019.3 (実績)	2020.3 (実績)	2020.12 (実績)
社債	18,099 (1.83%)	18,399 (1.73%)	17,701 (1.68%)	17,301 (1.61%)	17,102 (1.56%)	20,202 (1.34%)
長期借入金	9,937 (1.23%)	10,301 (1.14%)	10,729 (1.10%)	11,014 (1.06%)	11,243 (0.99%)	12,643 (0.91%)
鉄道施設購入 長期未払金	4,383 (6.18%)	3,409 (6.45%)	3,365 (6.47%)	3,321 (6.49%)	3,277 (6.51%)	3,254 (6.52%)
その他有利子負債	—	—	—	—	1,500 (—)	6,450 (0.08%)
合計	32,419 (2.23%)	32,110 (2.04%)	31,796 (1.99%)	31,637 (1.93%)	33,123 (1.79%)	42,550 (1.42%)
ネット有利子負債	29,341	29,239	28,647	28,999	31,585	39,202

(注) ネット有利子負債＝連結有利子負債残高－連結現金及び現金同等物残高

上段：残高
下段：平均金利

資金調達について

■方針

- ・「早め、多め、長め」の資金調達により、十分な流動性を確保
- ・今後の収入動向を見極めながら、柔軟に対応（調達・返済）
- ・短期資金の活用により有利子負債の過度な積み上がりに留意

■資金調達の状況

- ・長期資金調達（社債・借入） 2020年4～12月 合計5,500億円
- ・短期資金調達（CP、特別当座借越、コミットメント・ライン、一般当座借越） 12月末残高 合計6,450億円

■発行枠・契約金額（1兆3,500億円）

CP 5,000億円、特別当座借越 4,900億円、コミットメント・ライン 3,000億円、一般当座借越 600億円

■長期格付け

格付機関名	格付け
ムーディーズ	A1（安定的）
スタンダード&プアーズ（S&P）	A+（安定的）
格付投資情報センター（R&I）	AA+（安定的）

■短期格付け

格付機関名	格付け
格付投資情報センター（R&I）	a-1+
日本格付研究所（JCR）	J-1+

（2020年12月末時点）

Ⅱ グループ経営ビジョン「変革2027」の 新たな数値目標の設定について

「変革2027」の数値目標（2025年度）

	2022年度目標 (2018年7月公表)	2025年度目標 (2021年1月公表)
連結営業収益	3兆2,950億円	3兆900億円 (3兆3,250億円)※1
連結営業利益	5,200億円	4,500億円
連結営業キャッシュ・フロー	3兆7,200億円 ※2	3兆6,930億円 ※3
連結ROA	6.0%	4.5%程度
ネット有利子負債/EBITDA ※4	3.5倍程度	5倍以下

※1 () 内は「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響を除いた参考値

※2 2018年度から2022年度までの総額

※3 2021年度から2025年度までの総額

※4 ネット有利子負債＝連結有利子負債残高－連結現金及び現金同等物残高
EBITDA＝連結営業利益＋連結減価償却費

「変革2027」の数値目標（2025年度）

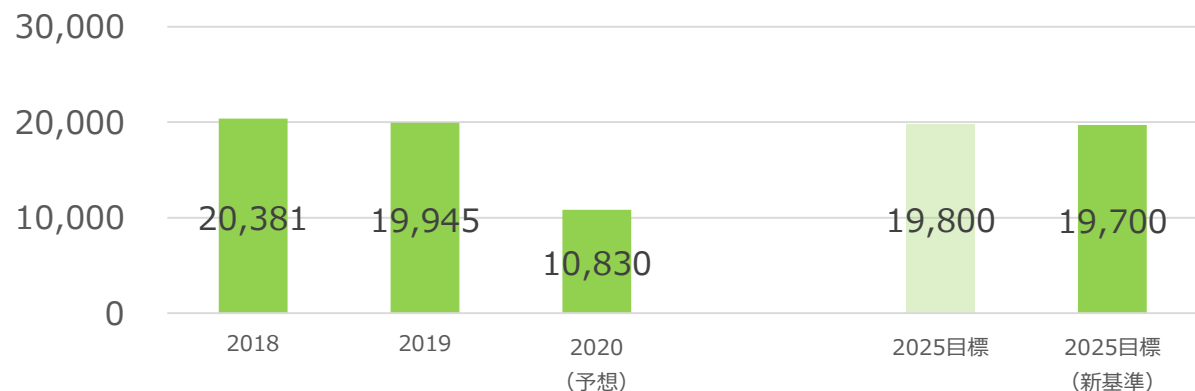
	連結営業収益	連結営業利益
運輸事業	1兆9,700億円 (1兆9,800億円)	2,520億円
流通・サービス事業	5,500億円 (7,090億円)	570億円
不動産・ホテル事業	4,800億円 (5,350億円)	1,130億円
その他	900億円 (1,010億円)	300億円
合計	3兆900億円 (3兆3,250億円)	4,500億円

※（ ）内は、「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響を除いた参考値

「変革2027」の数値目標（運輸事業）

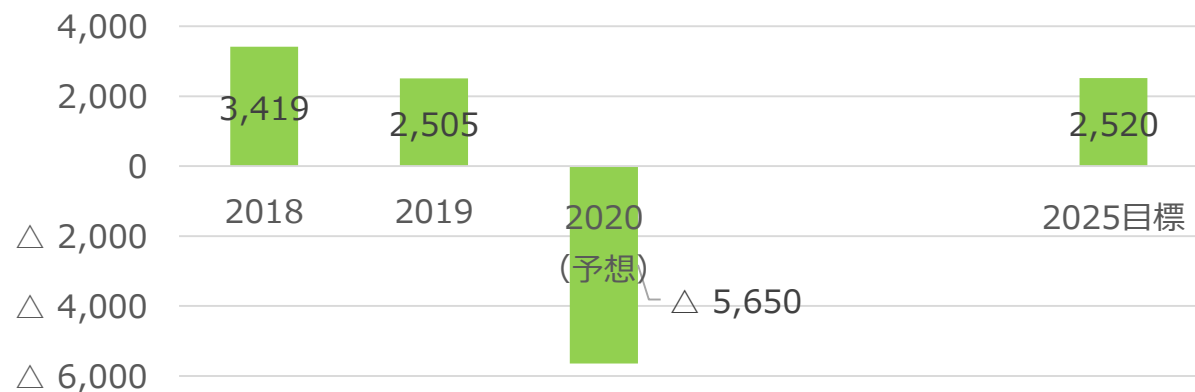
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



※「新基準」では「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響を加味している

<JR東日本>

・運輸収入

2021年末時点⇒コロナ前の約85%
2022年末時点⇒コロナ前の9割程度

【今後の主な取組み】

- ・中央快速線グリーン車導入
- ・営業施策（イールド管理等）
- ・インバウンド需要の確実な取込み

【営業費用の見通し】（2025年度時点）

＜人件費＞ 2020年度と同水準に抑制
＜修繕費＞ 2,850億円程度に抑制
＜物件費その他＞ 収入対応経費を除き、
2020年度と同水準に抑制

減価償却費・収入対応経費等の費用増加を、
コストダウン等で吸収し、営業費用全体では、
2020年度計画よりも微増程度に抑制する。

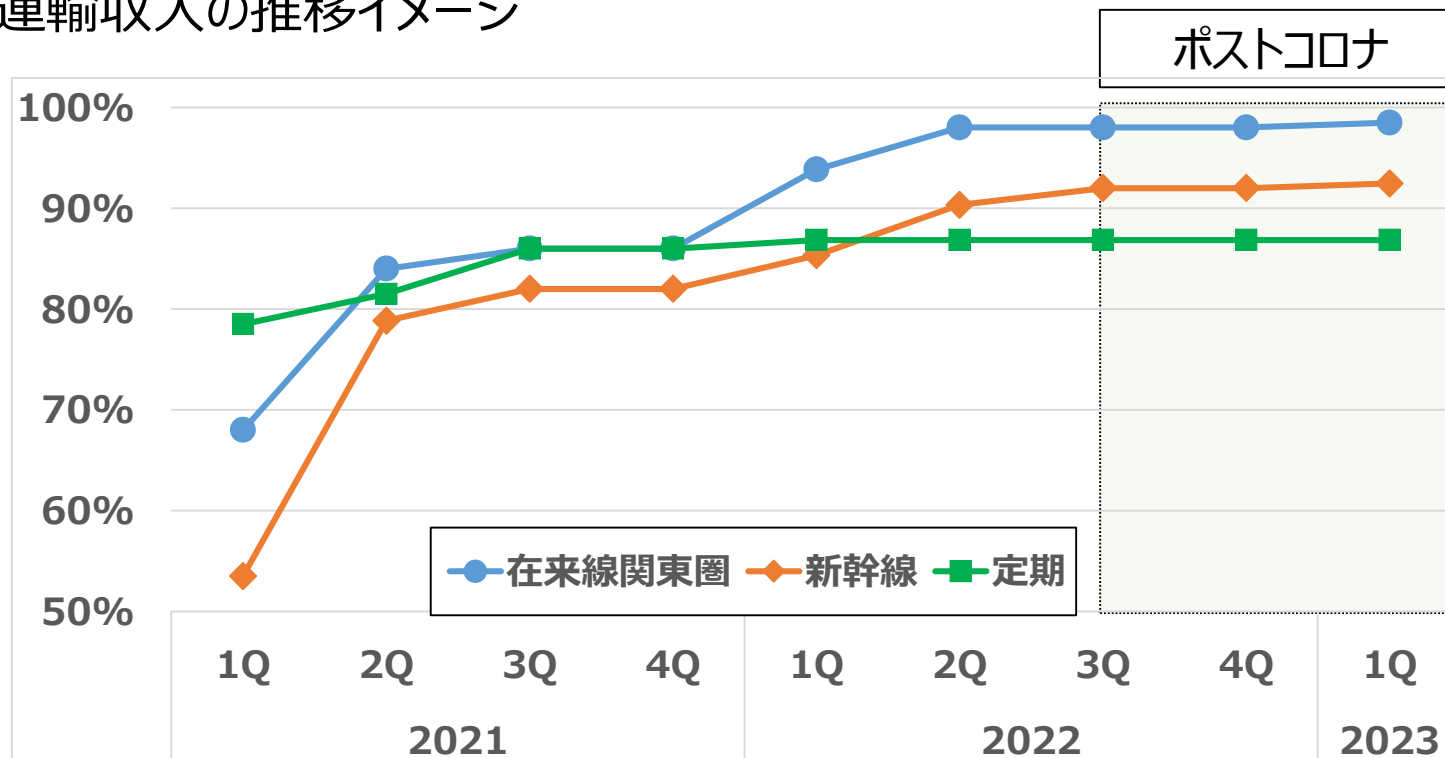
<総合車両製作所>

【今後の主な取組み】

- ・フィリピン マニラ地下鉄向け鉄道車両344両
の車両納入を受注済

「変革2027」の数値目標（運輸事業）

■ 運輸収入の推移イメージ



■ ウィズコロナの定常状態（コロナ前との比較）

在来線 関東圏	新幹線	定期	運輸収入計
約85%	約80%	約85%	約85%

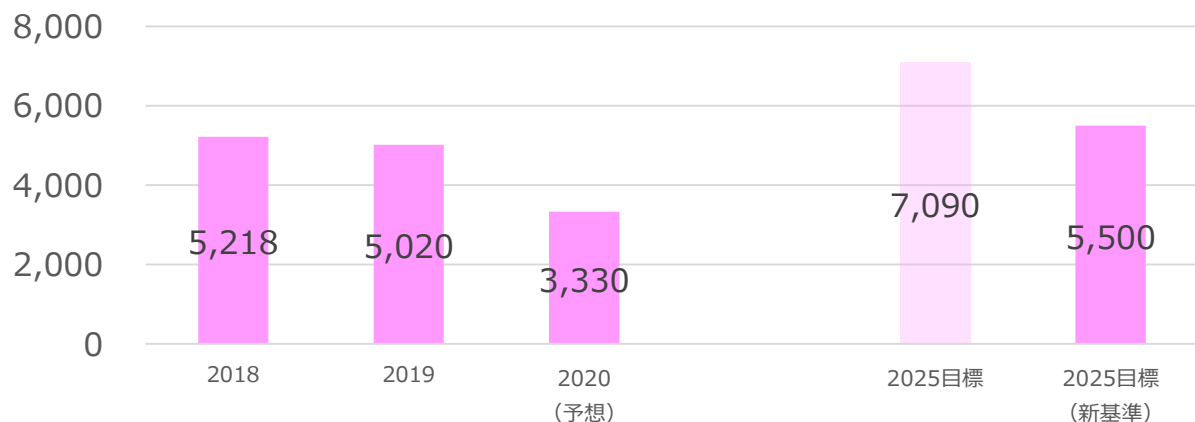
■ ポストコロナの定常状態（コロナ前との比較）

在来線 関東圏	新幹線	定期	運輸収入計
同水準	約9割	約9割弱	約9割

「変革2027」の数値目標（流通・サービス事業）

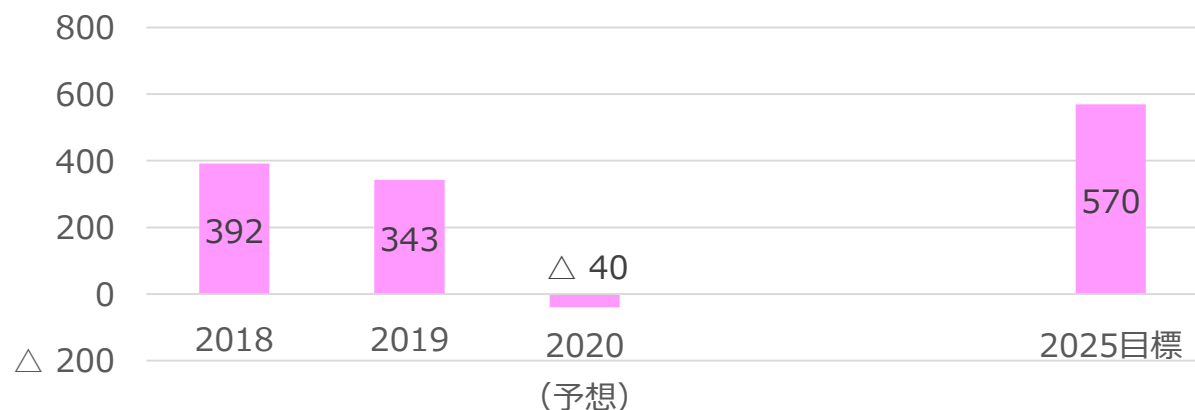
（単位：億円）

営業収益



（単位：億円）

営業利益



※「新基準」では「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響を加味している

【各業態の収益想定】

＜エキナカ店舗＞

- ・ポストコロナ（2022年度中）までは鉄道をご利用のお客さまの流動に連動して回復
- ・2021年度末時点⇒コロナ前の8割強程度
- ・2022年度末時点⇒コロナ前の9割程度

【今後の主な取組み】

- ・会社再編等を通じたエキナカ変革による既存店成長

＜広告業＞

- ・2021年度末時点⇒コロナ前の9割程度
- ・ポストコロナ（2022年度中）にはコロナ前の水準に戻ると想定

【その他の主な取組み】

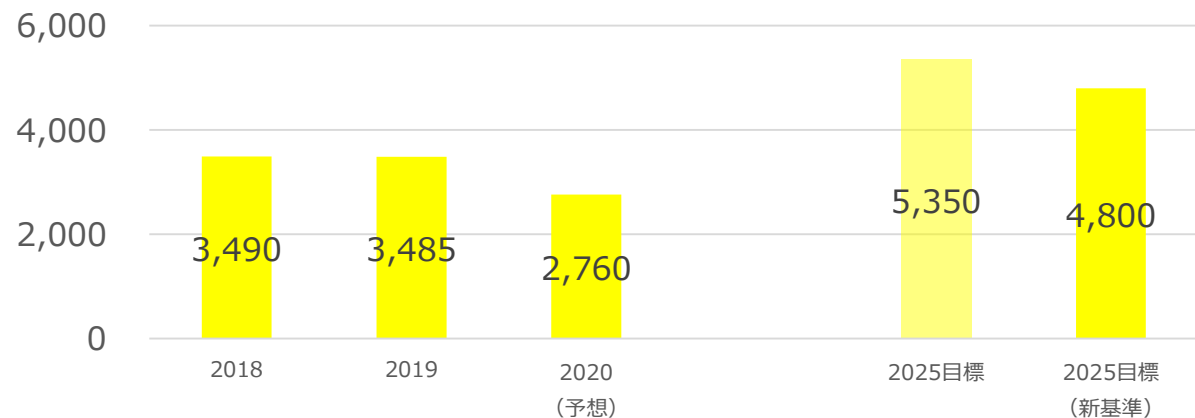
- ・シェアオフィス
- ・くらしお届けサービス
（列車を活用しての荷物輸送）



「変革2027」の数値目標（不動産・ホテル事業）

（単位：億円）

営業収益



【各業態の収益想定】

<ショッピングセンター事業>

- ・ポストコロナ（2022年度中）まではコロナ前の9割程度で推移
- ・2022年度末時点⇒コロナ前と同水準

【今後の主な取組み】

- ・既存店成長
- ・品川開発

<オフィス事業>

- ・開発プロジェクトの開業とともに収益が成長

【今後の主な取組み】

- ・品川開発
- ・新規オフィス（川崎、西五反田）

<ホテル事業>

- ・2021年度末時点⇒コロナ前の7割程度
- ・2022年度末時点⇒コロナ前の8割程度

【今後の主な取組み】

- ・ホテルの新規開業（台北・秋田・いわき）

（単位：億円）

営業利益

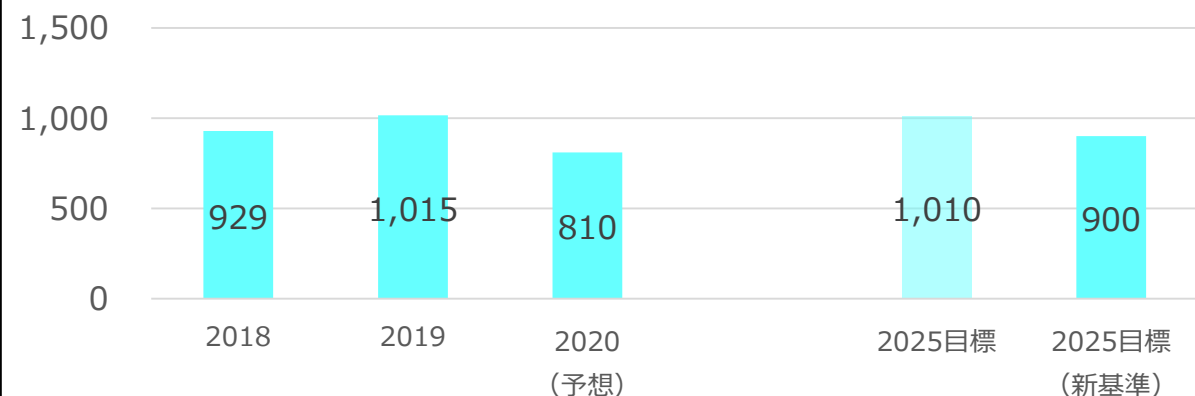


※「新基準」では「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響を加味している

「変革2027」の数値目標（その他）

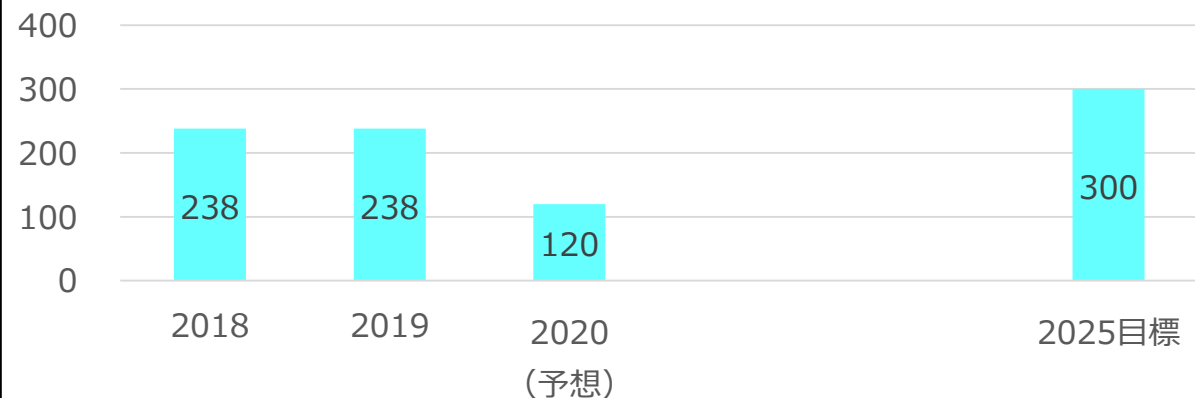
（単位：億円）

営業収益



（単位：億円）

営業利益



【セグメント全体の収支想定】

2018年度、2019年度に大きなシステム開発件名を受託したことによる反動減があるものの、ポストコロナ社会のキャッシュレス化の加速・進展を背景に**2021年度以降は増収増益基調を見込む**

【各業態の収益想定】

<クレジットカード事業>

- ・経済活動の回復とキャッシュレス化の進展により、2021年度末時点ではコロナ前の水準を上回る見込み

<Suica電子マネー事業>

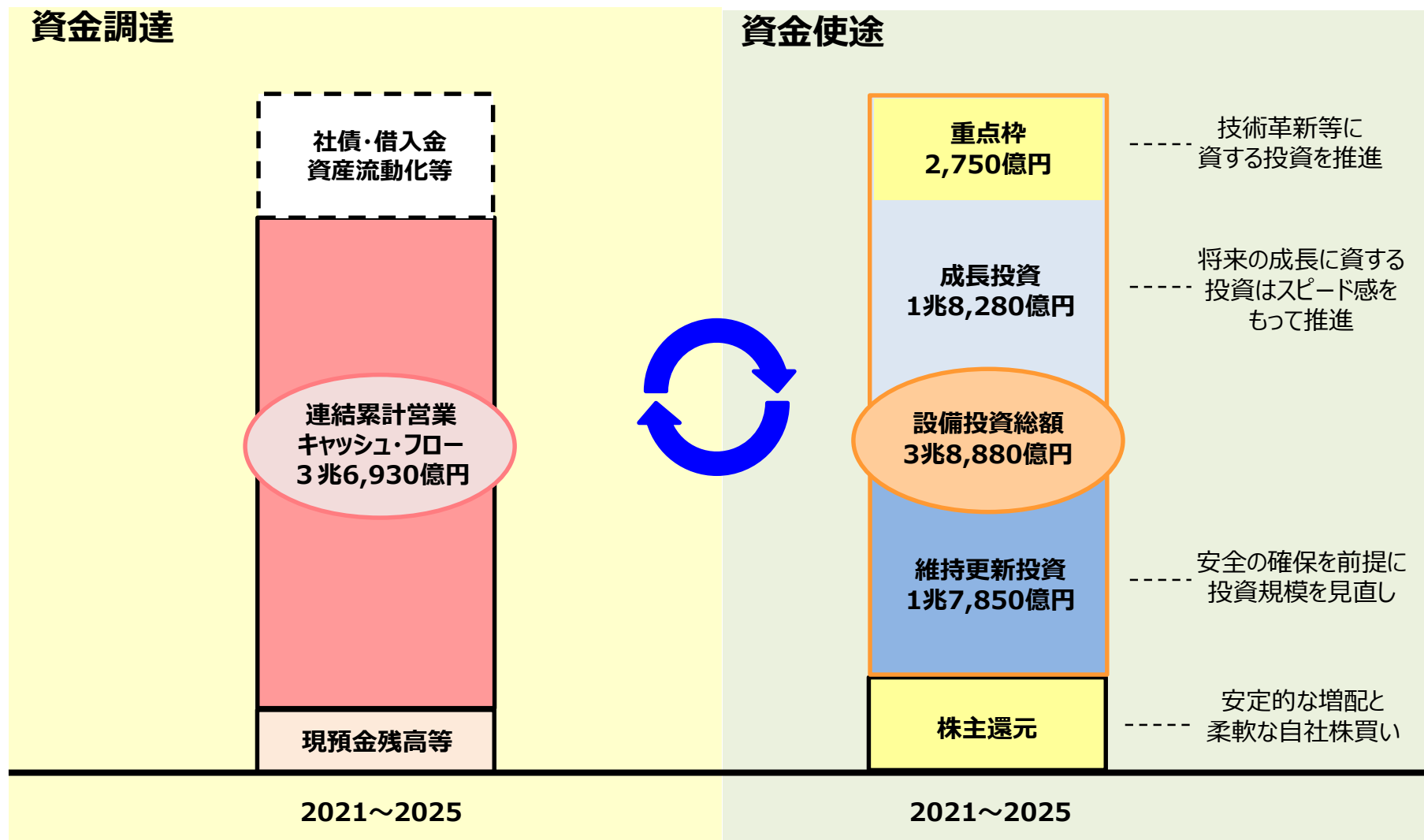
- ・営業収益を2020年度の2倍程度とする（2025年度）

【その他の主な取組み】

- ・再生可能エネルギー発電事業の推進（JR東日本エネルギー開発）

※「新基準」では「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響を加味している

資金調達と資金使途



■フリー・キャッシュ・フローは2023年度で黒字化を見込む

設備投資の実施方針

【成長投資】 将来の成長に資する投資はスピード感をもって推進

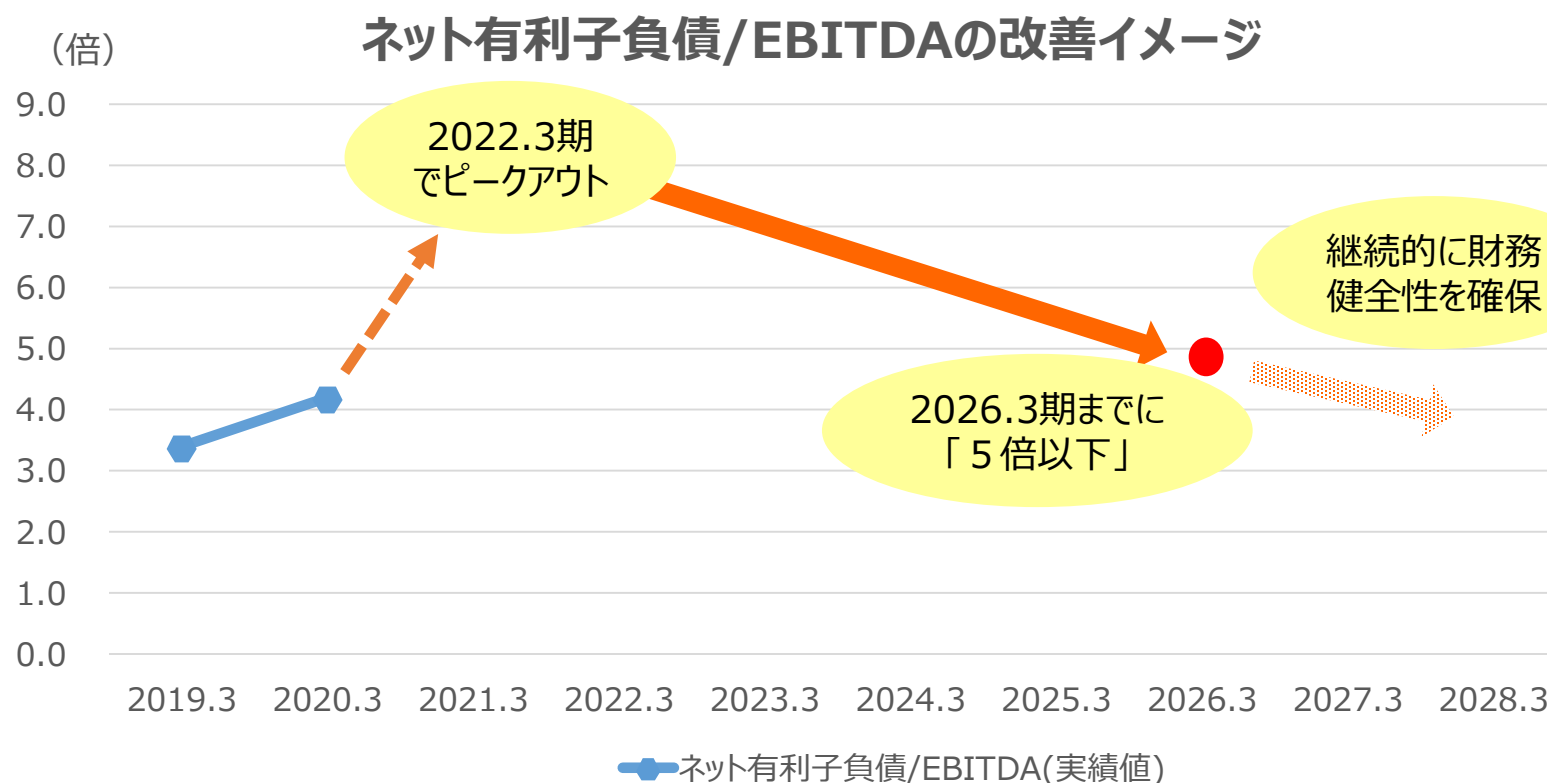
【維持更新投資】 安全の確保を前提に投資規模を見直し

【重点枠（イノベーション投資等）】 技術革新等に資する投資を推進

（単位：億円）

投資区分	2018-2022 計画	2021-2025 計画	増減	主な投資件名	
成長投資	14,400	18,280	+3,880	輸送サービス	中央快速線グリーン車導入
				生活サービス IT・Suicaサービス	品川開発プロジェクト
維持更新 投資	19,100	17,850	△1,250	輸送サービス	車両新造・改造 大規模地震対策 ホームドア整備
				生活サービス IT・Suicaサービス	駅ビル等老朽取替
重点枠 （イノベーション 投資等）	4,000	2,750	△1,250	輸送サービス	ワンマン運転設備整備 スマートメンテナンス（CBM）
				生活サービス IT・Suicaサービス	MaaS

- 「変革2027」における有利子負債の考え方（中長期的に、ネット有利子負債/EBITDAを3.5倍程度とする）は維持する
- 上記倍率は2022.3期に一時的に上昇するものの、2026.3期までに「5倍以下」へ改善し、その後も、財務健全性の確保に努める



(注1) ネット有利子負債 = 連結有利子負債残高 - 連結現金及び現金同等物残高

(注2) EBITDA = 連結営業利益 + 連結減価償却費

株主還元の考え方：「変革2027」の方針を維持

- 中長期的には、総還元性向は40%を目標とし、配当性向は30%をめざす
- 業績の動向をふまえ、安定的な増配及び柔軟な自社株買いを行っていく

具体的な取組みの数値目標（2025年度）

創造する価値	フォーカスポイント		2022 年度目標 (2018 年 7 月公表)	2025 年度目標 (2021 年 1 月公表)
豊かさ	生活	自社新幹線のチケットレス利用率	50%	70%
		えきねっと取扱率	-	60%
		モバイル Suica 発行枚数	-	2,500 万枚
		JR 東日本が提供する MaaS プラットフォーム（モビリティ・リンケージ・プラットフォーム）のサービス利用件数	3,000 万件/月	7,500 万件/月
		Suica 等交通系電子マネー利用	3 億件/月	5 億件/月
		「JRE MALL」取扱高	70 万人（会員数）	1,300 億円
		「JRE POINT」会員数	1,600 万人	2,500 万人
		シェアオフィスの展開	累計 30 箇所	累計 1,200 箇所
		子育て支援施設	累計 150 箇所	累計 170 箇所
		住宅展開戸数	-	累計 3,800 戸
		5G 整備エリア	-	累計 100 箇所
信頼	安全	事故（部外原因を除く）	0 件	0 件
		重大インシデント	0 件	0 件
		鉄道運転事故	20%減（2017 年度比）	20%減（2018 年度比）※1
		うちホームにおける鉄道人身障害事故	30%減（2017 年度比）	30%減（2018 年度比）※1
		輸送障害の発生率（部外原因を除く）		
		東京 100km 圏の在来線	50%減（2017 年度比）	70%減（2018 年度比）
		当社管轄エリアの新幹線	75%減（2017 年度比）	75%減（2018 年度比）
		東京 100km 圏の在来線の総遅延時分（部外原因を除く）	20%減（2017 年度比）	70%減（2018 年度比）
		鉄道事業における CO ₂ 排出量	-	50%減（2013 年度比）※2
		再生可能エネルギー電源の開発	-	70 万 kw ※2

※ 1 2023年度目標

※ 2 2030年度目標

Ⅲ 参考資料

2021年3月期 旅客輸送量・鉄道運輸収入 計画

			旅客輸送量　（百万人キロ）				鉄道運輸収入　（億円）				
			2020.3 実績	2021.3 計画	増減	(%)	2020.3 実績	2021.3 計画	増減	(%)	
新幹線			定期	1,909	1,560	△348	81.7	258	212	△45	82.2
			定期外	20,615	6,314	△14,301	30.6	5,397	1,656	△3,741	30.7
			計	22,524	7,875	△14,649	35.0	5,655	1,868	△3,787	33.0
在来線	関東圏	定期	71,720	54,140	△17,580	75.5	4,652	3,462	△1,190	74.4	
		定期外	35,620	19,155	△16,465	53.8	6,948	3,723	△3,224	53.6	
		計	107,341	73,295	△34,046	68.3	11,601	7,186	△4,414	61.9	
	その他	定期	3,045	2,676	△369	87.9	182	155	△27	85.0	
		定期外	2,473	1,153	△1,320	46.6	488	219	△268	45.1	
		計	5,519	3,829	△1,690	69.4	670	375	△295	56.0	
	在来線 合計	定期	74,766	56,816	△17,950	76.0	4,835	3,617	△1,218	74.8	
		定期外	38,094	20,308	△17,786	53.3	7,436	3,943	△3,492	53.0	
		計	112,861	77,124	△35,736	68.3	12,272	7,561	△4,710	61.6	
合計			定期	76,675	58,376	△18,298	76.1	5,094	3,830	△1,264	75.2
			定期外	58,710	26,623	△32,087	45.3	12,833	5,600	△7,233	43.6
			計	135,385	84,999	△50,386	62.8	17,928	9,430	△8,498	52.6

ホテル事業の概要

営業収益*1 176億円 (2020.12)

営業利益*1 △149億円 (2020.12)

*1 グループ会社のホテル事業及びJR東日本単体のホテル事業の単純合計

【参考】 JR東日本ホテルズ一覧

■ メトロポリタンホテルズ（14ホテル、4,021室）

営業収益*2 90 億円（2020.12） 稼働率 27.3 %

■ JR東日本ホテルメッツ（29ホテル、4,009室）

営業収益*2 44 億円（2020.12） 稼働率 52.4 %

*2 各ホテルの営業収益の単純合計

■ 東京ステーションホテル （150室）

■ メズム東京、オートグラフ コレクション （265室）

■ ホテルファミリーオ、ホテルfolkローロ （8ホテル、344室）

■ 和のゐ 角館（3室）

■ ホテルドリームゲート舞浜、ホテルドリームゲート舞浜アネックス （160室）

■ ホテルニューグランド （238室）

（2020年12月31日現在）

変革のスピードアップの進捗

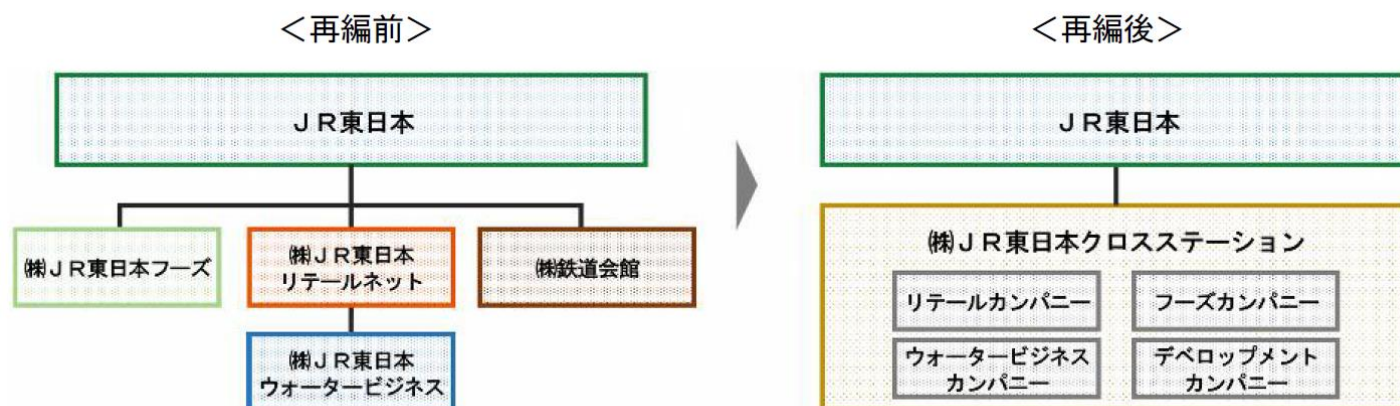
プレス日	内容
2020/9/3	「今後のローカル線への導入を目指した新たな列車制御システム」について発表 ・GNSS及び携帯無線通信網を活用し、ローカル線への展開を目指した新しい列車制御システムの開発を進める。
2020/10/6	「生活サービス事業のDXの加速」について発表 ・「JRE MALL ふるさと納税」やデジタル地域通貨の販売で地方創生に貢献する。
2020/10/8	「2050年度のCO2排出量『ゼロ』を目指すこと」を発表 ・「ゼロカーボン・チャレンジ2050」をJR東日本グループ全体の目標とし、グループ一体となって2050年度のCO2排出量「実質ゼロ」に挑戦し、「脱炭素社会」への貢献とともに、環境優位性のさらなる向上と持続可能な社会の実現を目指す。
2020/10/21	「ダイヤ改正における終電時刻繰り上げ等の概要」について発表 ・鉄道工事における働き方改革の実現や鉄道設備の設置・保守のスピードアップによるサービス向上を図るとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機としたお客さまの行動様式の変化に対応していく。
2020/11/10	「多様化する通勤スタイルに合わせたJRE POINTの新サービス」を発表 ・2021年春より快適な時差通勤を応援するポイントサービスを実施。
2020/12/1	「2回目となるサステナビリティボンドの発行」を発表 ・サステナビリティボンド発行を通じ、お客さま、地域・社会、株主・投資家、社員をはじめとするステークホルダーに対し、改めて「変革2027」で推進するESG 経営への取組みを発信するとともに、「信頼」を高め、当社グループの持続的な成長につなげていく。
2020/12/15	「KDDI株式会社と、品川開発プロジェクトをコアとした、新たな分散型まちづくりの共同事業化に向けた基本合意」を発表 ・本プロジェクトに基づくまちづくりのコアシティとなる品川開発プロジェクトの共同推進、分散拠点としてのサテライトシティ（日本各地）の開発、コアシティとその周辺におけるモビリティサービスの開発を検討し、共同事業化を目指す。
2020/12/23	「株式会社西武ホールディングスとの包括的連携」を発表 ・(1)新しい働き方・暮らし方の提案 (2)まちづくりに向けた長期的な連携 (3)沿線活性化に向けた連携の3つを軸として、包括的に様々な取組みを進める。
2021/1/20	「羽田空港アクセス線（仮称）の鉄道事業許可」について発表 ・本計画ルートのうち「アクセス新線」について、2021年1月20日付で鉄道事業許可を受ける。

グループ事業の再編①

株式会社JR東日本クロスステーション（2021年4月1日設立予定）

駅の価値最大化を目的に、2021年4月に子会社の(株)JR東日本リテールネット、(株)JR東日本フーズ、(株)JR東日本ウォータービジネスおよび(株)鉄道会館を合併し、(株)JR東日本クロスステーションとする準備を推進。

【事業再編イメージ】



【会社概要】

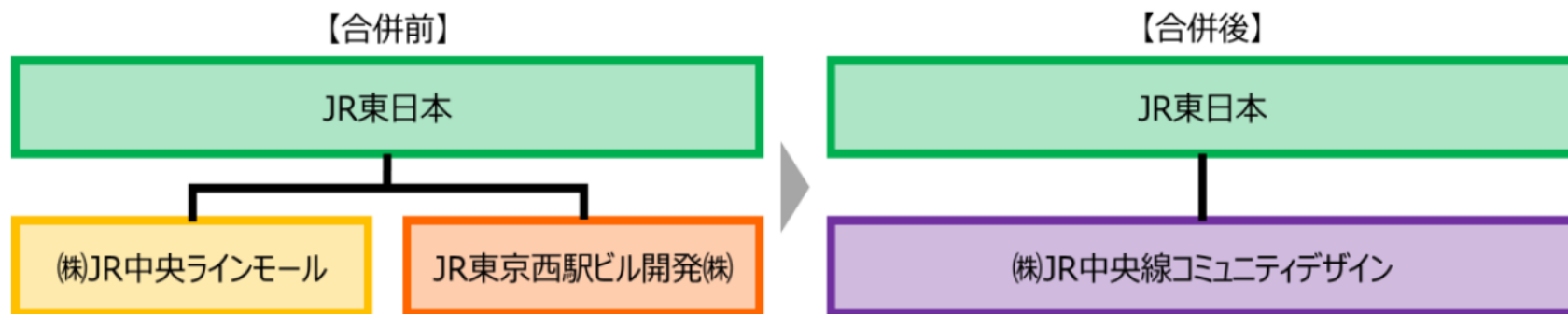
商 号	(株)JR 東日本 リテールネット	(株)JR 東日本 フーズ	(株)JR 東日本 ウォータービジネス	(株)鉄道会館
主 な 事 業 内 容	駅構内小売、 商業施設等の運営 および開発	駅構内等における飲 食店の運営、 副食材料の製造加 工、給食受託	飲料の製造卸、 自動販売機の運営	商業施設等の運営 および開発
主 な 展 開 ブ ラ ン ド	NewDays、 ecute 等	いりり庵きらく、 Becker's、BECK'S COFFEE SHOP、 駅弁屋 祭 等	acure 等	グランスタ、 キッチンストリート、 グランルーフ 等

グループ事業の再編②

株式会社JR中央線コミュニティデザイン（2021年4月1日設立予定）

世代を超えてくらしやすい生活空間を創造する「沿線くらしづくり構想」の実現に向けて、2021年4月に子会社の(株)JR中央ラインモールとJR東京西駅ビル開発(株)を合併し、(株)JR中央線コミュニティデザインとする準備を推進。

【事業再編イメージ】



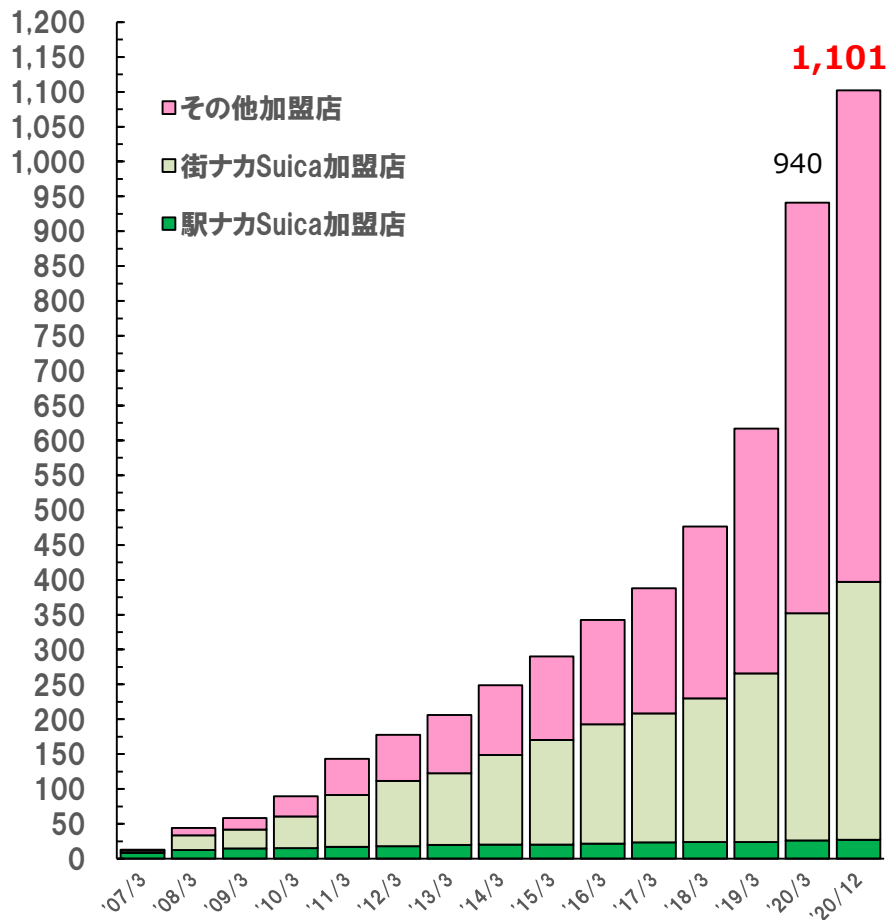
【会社概要】

商号	(株)JR 中央ラインモール	JR 東京西駅ビル開発(株)
主 な 事 業 内 容	・ 商業施設等の企画・開発・運営 ・ プログラミング教室運営 ・ 駅業務受託	・ 駅ビルの共同開発、管理・運営等
主 な 運 営 施 設	<nonowa> 武蔵境, 東小金井, 武蔵小金井, 西国分寺, 国立	<CELEO> 八王子, 西八王子, 国分寺, 甲府, 相模原 <Dila> 拝島
駅 業 務 受 託	武蔵境, 東小金井, 国立 ※2021 年 4 月より受託開始予定 南多摩, 稲城長沼, 矢野口	—

■ 交通系電子マネー利用可能店舗数

(単位：千店)

※ 数値はその他加盟店実績を含む

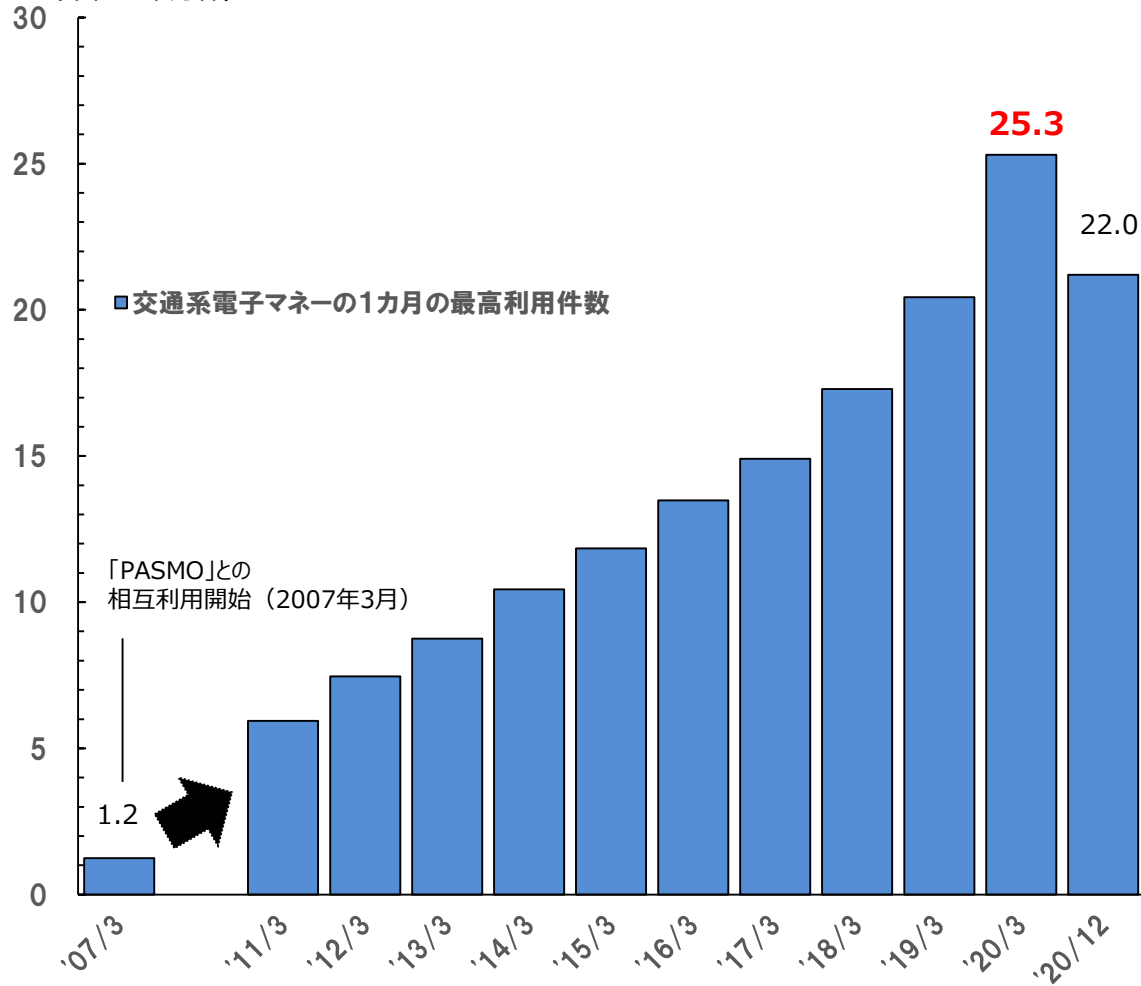


【利用可能店舗数】 約 1,101,420店舗 (129.2%)
 【利用可能箇所数(端末台数)】 約 1,812,960箇所 (123.8%)
 ※括弧内は前年比 [2020年12月末現在]

■ 交通系電子マネーの月間利用件数 (各年度の最高値)

(単位：千万件)

※ 数値はその他加盟店実績を含む

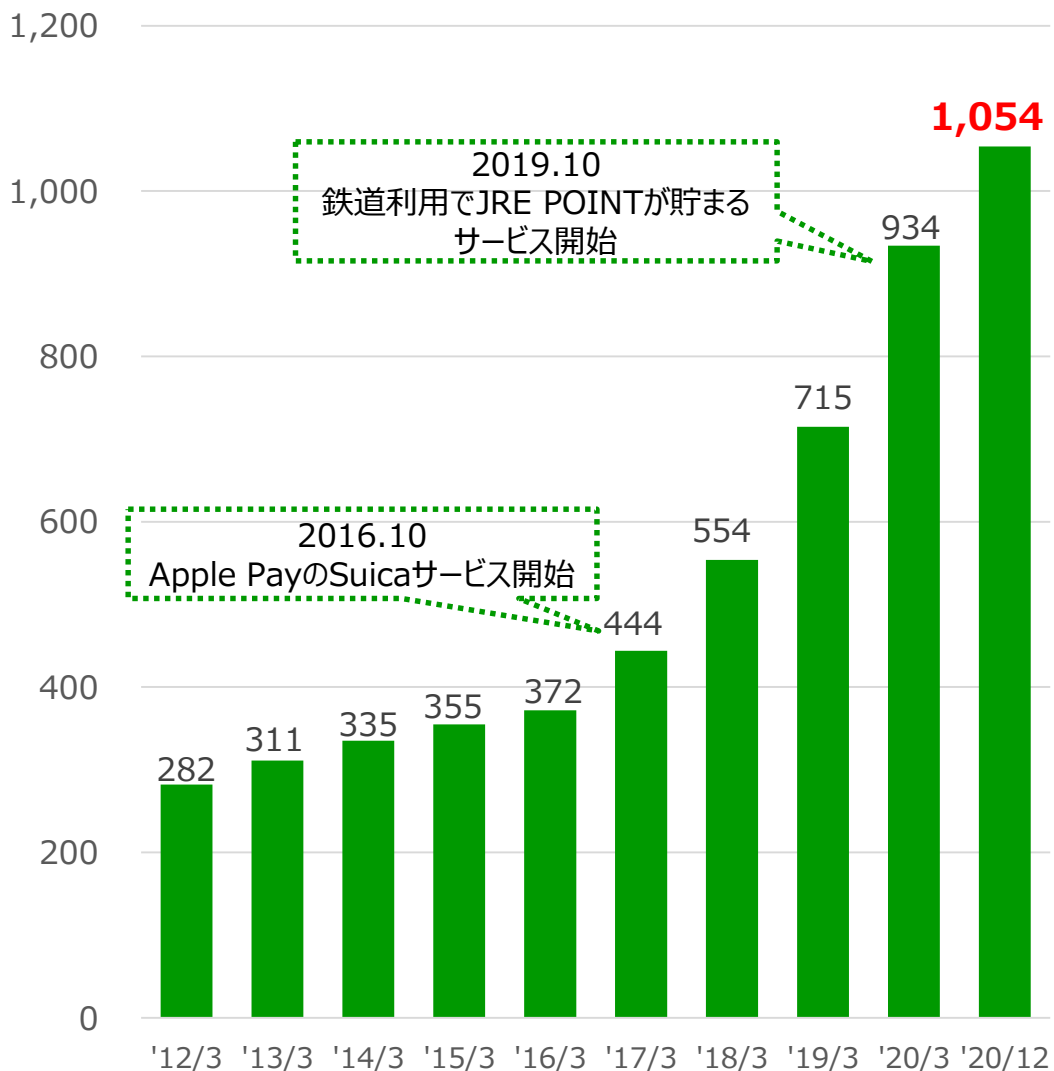


【Suica発行枚数】 約 8,506万枚 (104.5%)
 【月間利用件数(過去最高値)】 約 25,261万件 2019年12月実績
 【1日あたり利用件数(過去最高値)】 約 958万件 2019年12月20日実績
 ※括弧内は前年比 [2020年12月末現在]

モバイルSuica・えきねっと

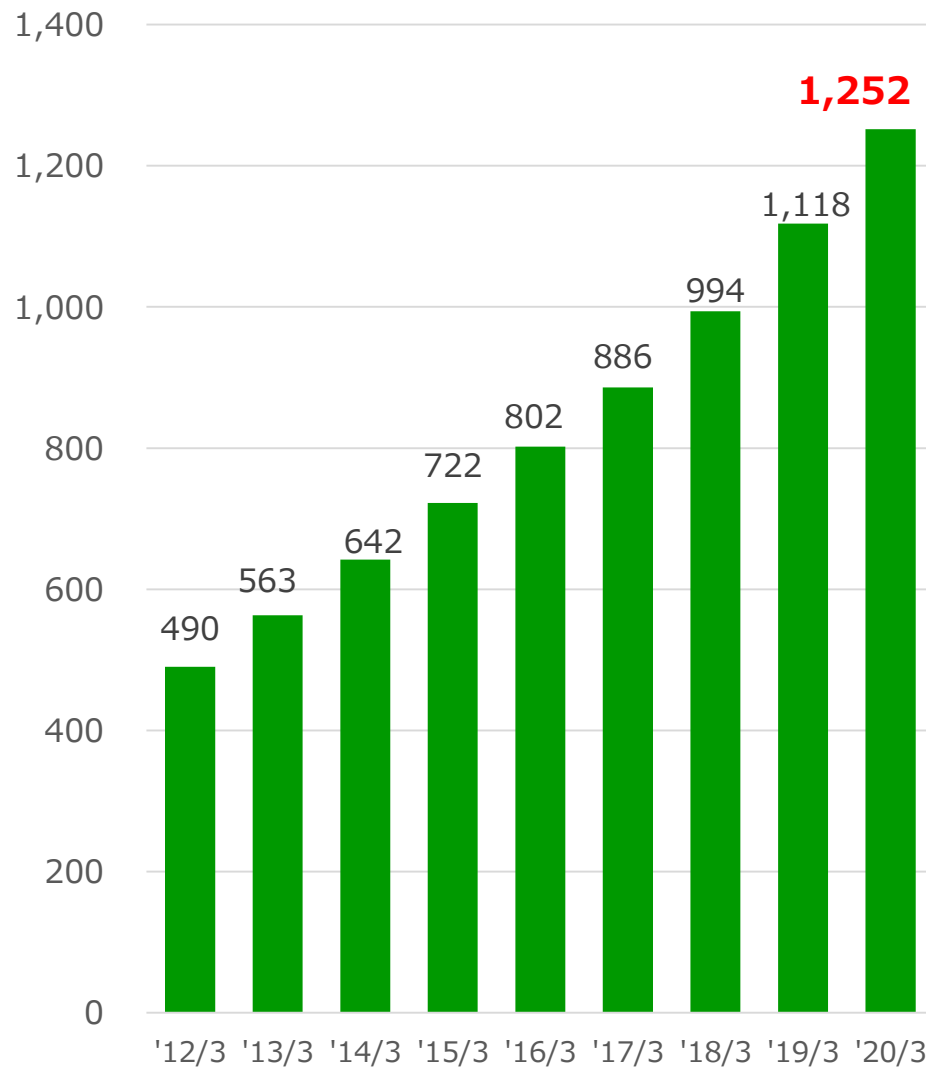
■モバイルSuica会員数（累計）の推移

（単位：万人）



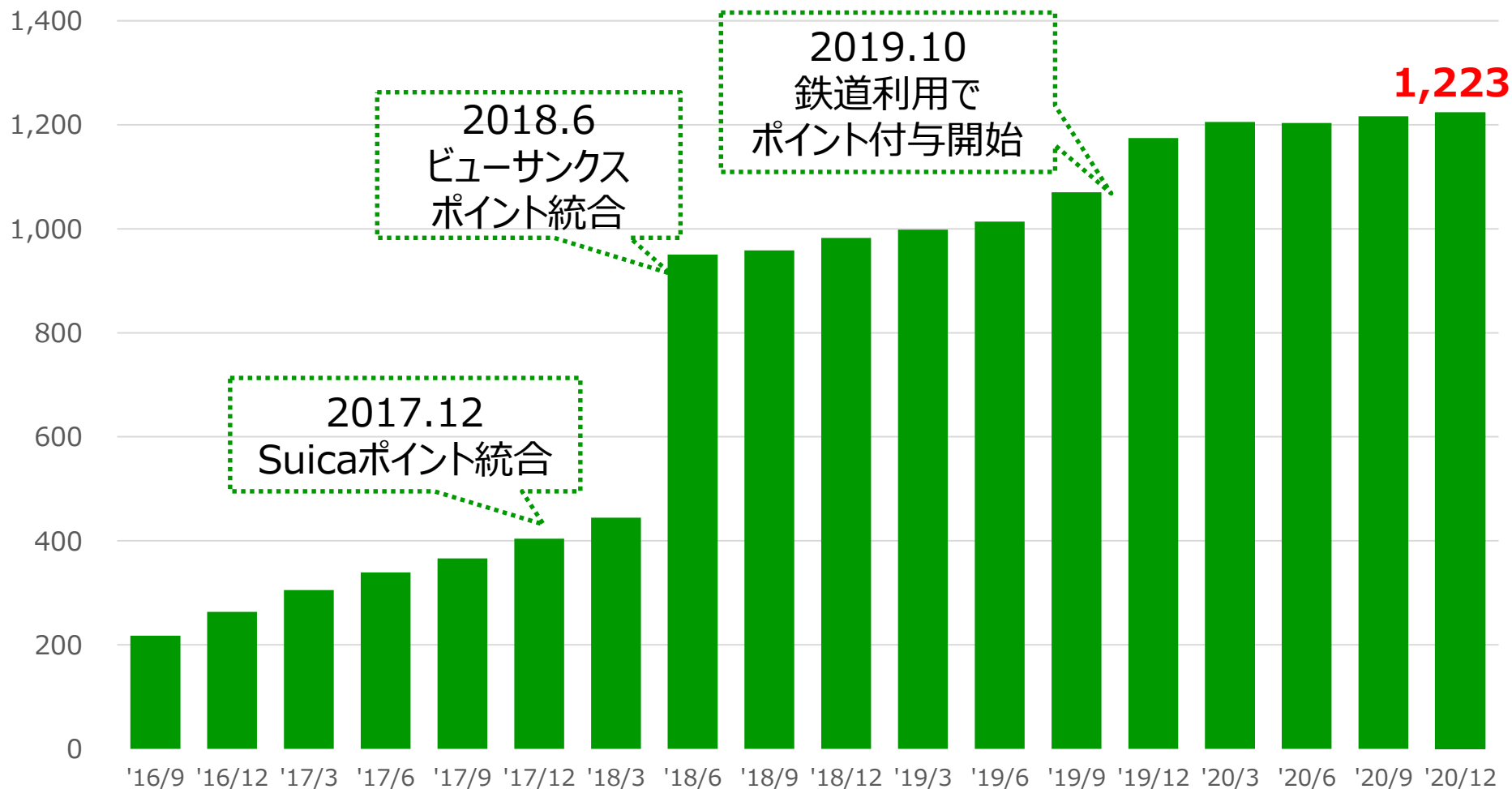
■えきねっと会員数（累計）の推移

（単位：万人）



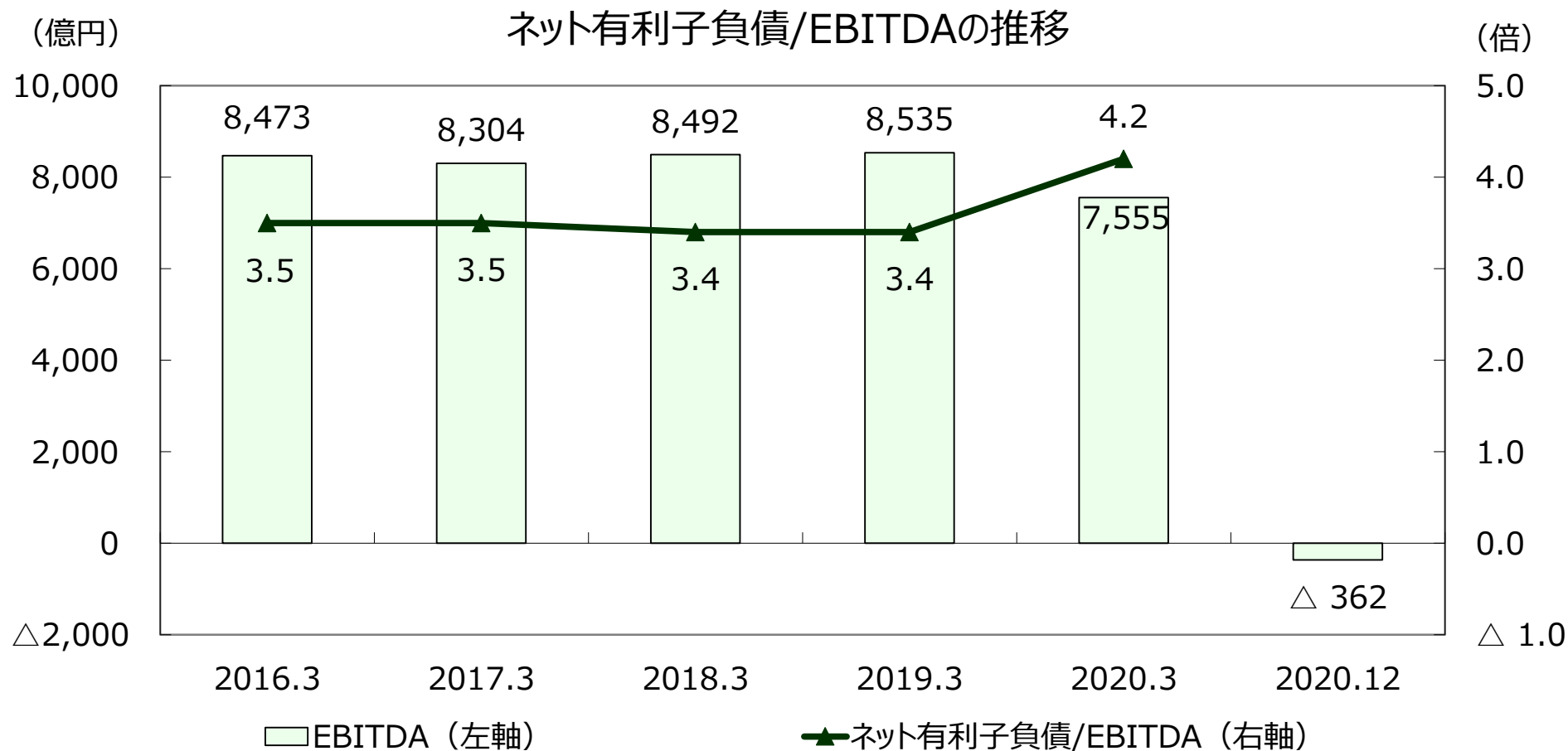
■ JRE POINT会員数（累計）の推移

（単位:万人）



財務指標の動向（1）

債券投資家向け追加資料



(参考)

	2016.3	2017.3	2018.3	2019.3	2020.3	2020.12
ネット有利子負債 (億円)	29,341	29,239	28,647	28,999	31,585	39,202

(注 1) ネット有利子負債 = 連結有利子負債残高 - 連結現金及び現金同等物残高

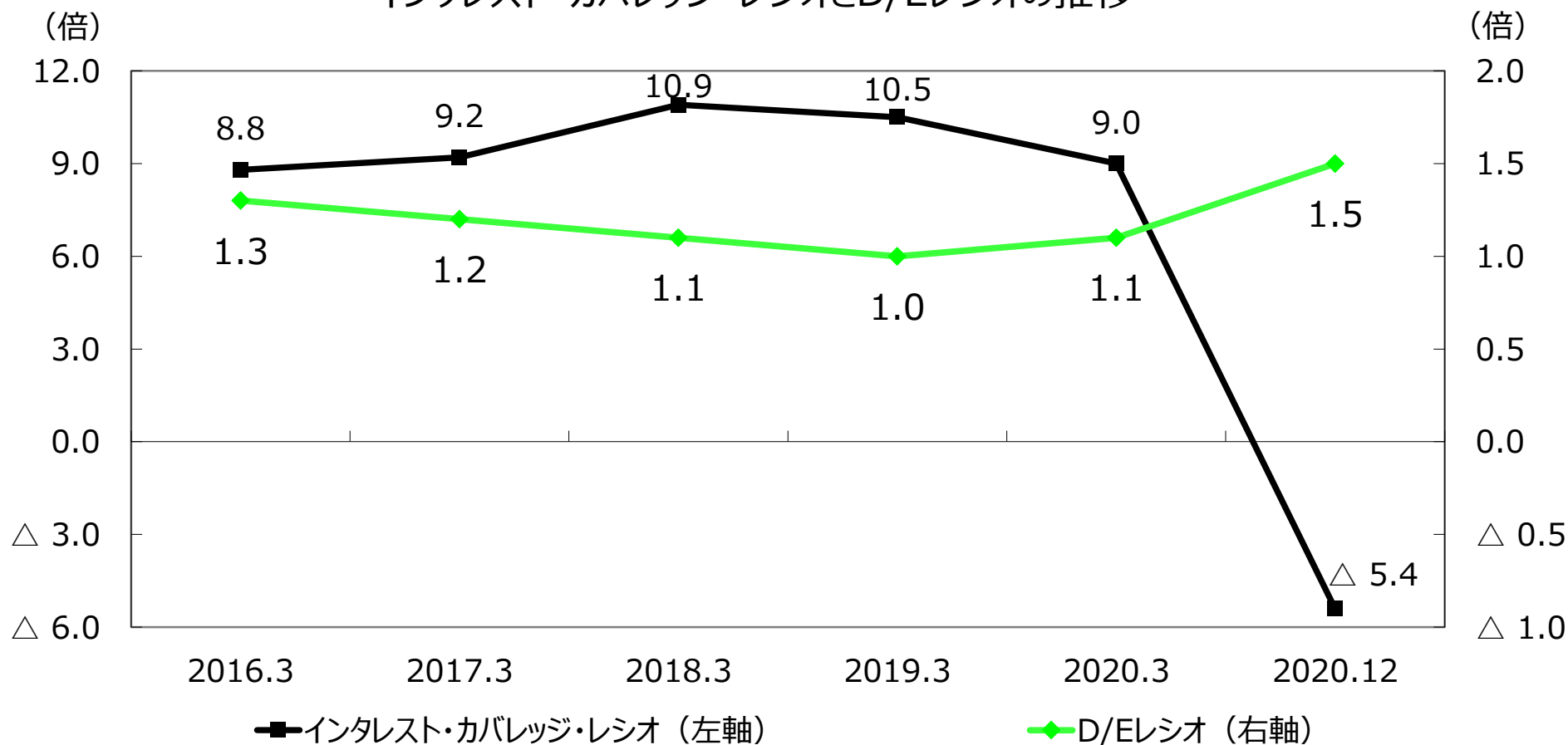
(注 2) EBITDA = 連結営業利益 + 連結減価償却費

財務指標の動向（2）

債券投資家向け追加資料



インタレスト・カバレッジ・レシオとD/Eレシオの推移



（注1） インタレスト・カバレッジ・レシオ＝営業キャッシュ・フロー／利息の支払額

（注2） D/Eレシオ＝有利子負債／自己資本

有利子負債の内訳及び償還見込み

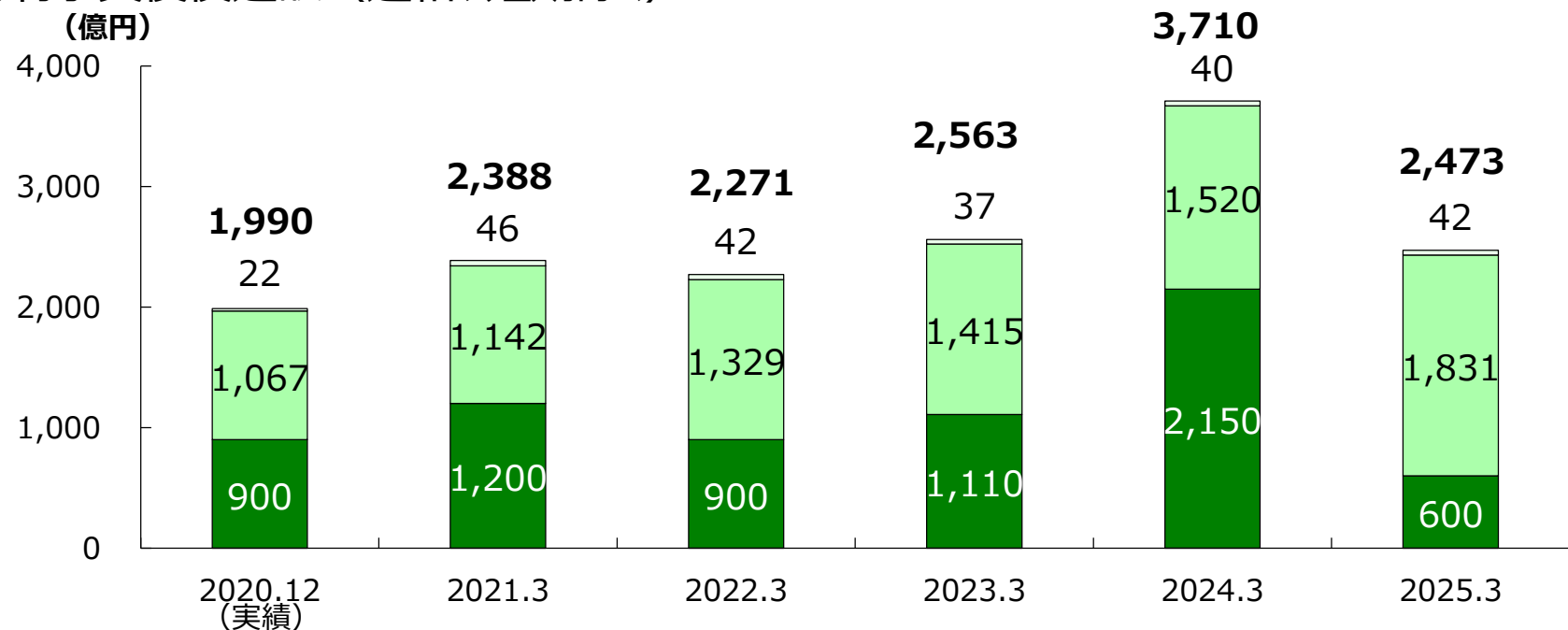
債券投資家向け追加資料



連結有利子負債の内訳（2020年12月末）

	残高（億円）	構成比	平均金利	平均年限
社債	20,202	47.5%	1.34%	13.88年
長期借入金	12,643	29.7%	0.91%	6.81年
鉄道施設購入長期未払金	3,254	7.6%	6.52%	20.10年
その他有利子負債	6,450	15.2%	0.08%	0.18年
合計	42,550	100.0%	1.42%	10.18年

有利子負債償還額（連結、短期除く）



（注1）見込額は2021年2月1日現在

（注2）社債償還額は額面金額

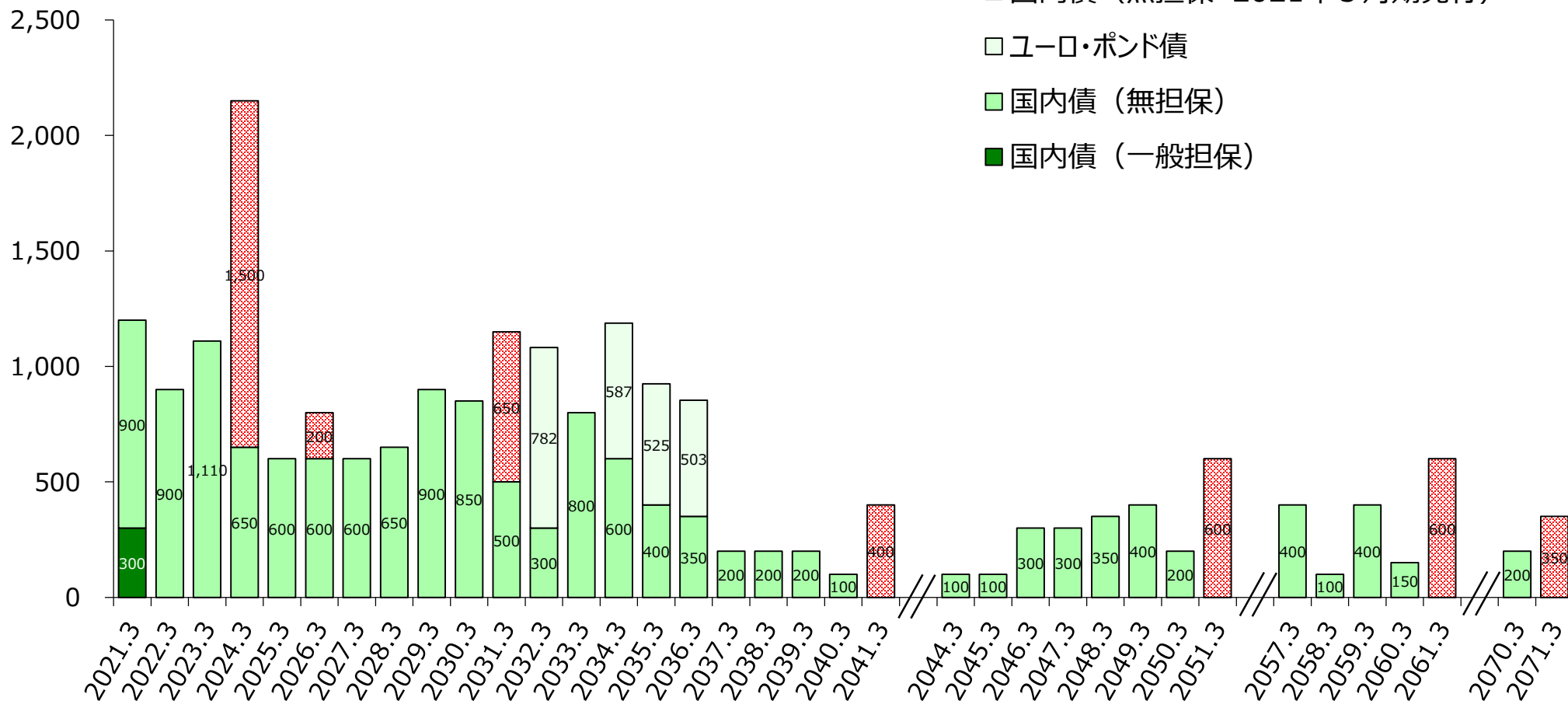
社債の償還見込み

債券投資家向け追加資料



社債償還額（単体）

（億円）



（注1） 2021年2月1日現在

（注2） 償還額は額面金額

2021年3月期の社債発行実績

債券投資家向け追加資料



回号	年限	発行総額	クーポン	発行価格	応募者 利回り	JGB スプレッド	発行日	償還日
146	3	500億円	0.150%	100円	0.150%	-	2020.4.22	2023.4.21
147	10	200億円	0.265%	100円	0.265%	+25.5bp	2020.4.22	2030.4.22
148	20	100億円	0.569%	100円	0.569%	+24bp	2020.4.22	2040.4.20
149	30	100億円	0.697%	100円	0.697%	+25bp	2020.4.22	2050.4.22
150	40	150億円	0.832%	100円	0.832%	+36bp	2020.4.22	2060.4.22
151	50	200億円	0.992%	100円	0.992%	-	2020.4.22	2070.4.22
152	5	200億円	0.090%	100円	0.090%	-	2020.7.20	2025.7.18
153	10	150億円	0.230%	100円	0.230%	+21.5bp	2020.7.20	2030.7.19
154	20	100億円	0.610%	100円	0.610%	+22bp	2020.7.20	2040.7.20
155	30	200億円	0.763%	100円	0.763%	+21bp	2020.7.20	2050.7.20
156	40	200億円	0.902%	100円	0.902%	+33bp	2020.7.20	2060.7.20
157	3	1,000億円	0.001%	100.003円	0.000%	-	2020.10.20	2023.10.20

2021年3月期の社債発行実績

債券投資家向け追加資料



回号	年限	発行総額	クーポン	発行価格	応募者 利回り	JGB スプレッド	発行日	償還日
158	20	200億円	0.560%	100円	0.560%	+17.5bp	2020.12.18	2040.12.18
159	30	300億円	0.836%	100円	0.836%	+19.5bp	2020.12.18	2050.12.16
160	40	250億円	0.970%	100円	0.970%	+30bp	2020.12.18	2060.12.17
161	50	150億円	1.152%	100円	1.152%	-	2020.12.18	2070.12.18
第2回サステナ ビリティボンド	10	300億円	0.205%	100円	0.205%	+17.5bp	2021.1.25	2031.1.24

JR東日本ホームページ
「企業・IR・Sustainability」→「IR情報」→「財務情報」→「決算説明会」
<https://www.jreast.co.jp/investor/guide/>

将来の見通しの記述について

このレポートに記載されているJR東日本グループの現在の計画、戦略、確信などのうち、過去の事実以外のものはJR東日本グループの将来の業績に関する見通しの記述であり、現在入手可能な情報に基づく経営陣の仮定と確信に基づくものであります。これらの将来見通しの記述は、既に知られているリスク、知られていないリスクや不確かさ、その他の要因などを含み、JR東日本グループの実際の経営成績、業績などはこのレポートに記載した見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には以下のようなものなどが含まれます。

①鉄道事業の現在の利用者数を維持または増加させるJR東日本グループの能力、②鉄道事業その他の事業の収益性を改善するJR東日本グループの能力、③鉄道事業以外の事業を拡大するJR東日本グループの能力、④日本全体の経済情勢や法規制、日本政府の政策など。